

早稲田大学 人間科学学術院 人間科学会 諸費用補助成果報告書 (Web 公開用)

申請者 (ふりがな)	渡邊 貴子 (わたなべ きこ)
所属・資格 (※学生は課程・学年を記載。卒業生・修了生は卒業・修了年月も記載)	修士課程 1 年
発表年月 または事業開催年月	2026 年 3 月
発表学会・大会 または事業名・開催場所	日本発達心理学学会第 37 回大会
発表者 (※学会発表の場合のみ記載、共同発表者の氏名も記載すること)	渡邊貴子, 大森幹真
発表題目 (※学会発表の場合のみ記載)	書字場面の文字・手元の見比べ行動実測による書き困難の推定
発表・活動・開催の概要と成果 (学会発表の場合、抄録を公開している URL がある場合、「概要・成果」を記載した上で、URL を末尾に記してください。また、抄録 PDF は別途ご提出ください。なお、抄録 PDF は Web 上には公開されません。)	
<p>【序論・目的】 本研究は、見本刺激と手元への視線パターンを共に計測するために、グラス型アイトラッカーを使用した。また高校生を対象に運動協応得点の高低により書字中の文字刺激と手元に対する視線パターンに違いが見られるかについて検討することを目的とした。</p> <p>【方法】 <u>参加者</u>：16～18 歳の生徒 19 名を対象とした。本研究は早稲田大学倫理審査委員会 (2024-607) での承認後、参加者本人に文章と口頭で説明を行い、書面による同意を得た上で、研究を実施した。 <u>装置</u>：グラス型アイトラッカー (Pupil Neon) とモニターを使用し、書字中の測定興味領域 (AOI) 内の視線を計測した。AOI は、文章刺激と紙の 2 つに設定した。 <u>刺激</u>：群分類を行うための Berry-VMI 検査 (Visual Perception: 視知覚, Motor Coordination: 運動協応) と、漢字とひらがなで構成された 59 文字の文章を用意した。 <u>手続き</u>：はじめに、Berry-VMI 検査の 2 つの課題を実施した。その後、目の前のモニターに映し出された文章刺激を、手元にある紙に鉛筆で視写してもらった。誤字の場合は、二重線で訂正してもらった。 <u>従属変数</u>：Berry-VMI 検査の運動協応得点、総注視時間、平均注視時間、視線停留回数を使用した。</p> <p>【結果・考察】 MC 要因と AOI 要因の 2 要因分散分析を行った結果、総注視時間 (刺激：6416.68ms, $SD=3234.18$ 紙：54914.53ms, $SD=26778.43$ $p<.001$)、平均注視時間 (刺激：162.63ms, $SD=40.36$ 紙：1003.89ms, $SD=625.23$ $p<.001$)、視線停留回数 (刺激：38.16 回, $SD=15.66$ 紙：78.58 回, $SD=54.82$ $p<.05$) の全てに有意な主効果が認められた。また、従属変数と Berry-VMI 検査の結果について相関分析を行った結果、視知覚得点と紙への視線停留回数に負の相関が見られた ($r=-.46$, $p<.05$)。以上の結果より、MC 得点の高低による差は認められなかったが、文字の認識より出力する際に多くの視線が必要になると考える。また、視知覚の程度から書き困難児を発見できるのではないかと推測する。</p>	